

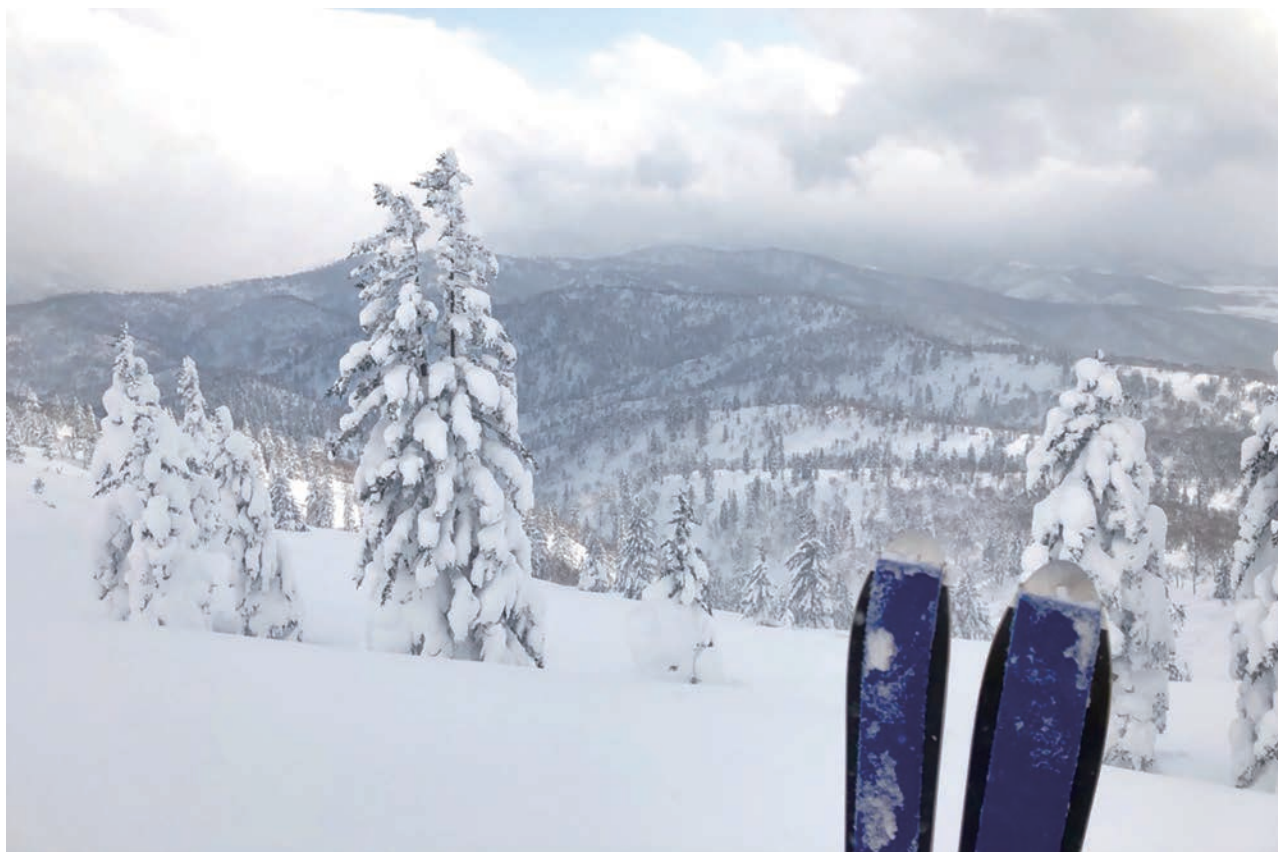


(題字は初代学長 山田守英氏)

第 173 号

平成 30 年 12 月 28 日

編集 旭川医科大学
発行 教務部学生支援課



「坊主山」

(写真撮影: 学生支援課)

教授就任の挨拶	旭川医科大学基金「感謝の集い」を開催しました ……14
外科学講座(消化管外科学分野)	学生団体代表者との懇談会を実施しました ……15
角 泰雄 …… 2	ギター部&ジャズ研究会合同クリスマスコンサート ……16
教授就任の挨拶	室内合奏団クリスマスコンサート ……17
眼科学講座 柳 靖雄 …… 3	合唱部クリスマスコンサート ……18
教授就任の挨拶	ブラスアンサンブルクリスマスコンサート ……19
看護学講座 山根 由起子 …… 4	平成31年度前期授業料免除の申請について ……20
教授就任の挨拶	安否確認システムによる訓練を実施しました ……21
放射線医学講座 沖崎 貴琢 …… 5	事故防止について ……22
第65回北海道地区大学体育大会 結果報告 …… 6	大学構内における駐車について ……23
大学の森みどりの保育園で「ぬいぐるみ病院」を実施… 8	迷惑行為の防止について ……23
平成30年度解剖体慰霊式を執り行いました …… 9	教員の異動 ……24
学生表彰式 ……10	今後のスケジュール ……24



教授就任のご挨拶

旭川医科大学外科学講座
消化管外科学分野

教授 角 泰 雄

2018年8月1日付で神戸大学より着任いたしました。また、当分野は2018年9月より、消化器病態外科学分野から消化管外科学分野として新たに再編されました。

前任地の神戸大学では、下部消化管外科分野の責任者として診療・研究・教育に従事し、腹腔鏡下手術の標準化ならびにその普及にも力を注いできました。

我々の消化管外科学分野は、消化管疾患（主に食道癌・胃癌・大腸癌などの消化管悪性疾患）を担当することとなります。現在、消化管疾患に対する外科治療は、急激な進化を遂げつつあります。ほんの10年前までは大腸癌に対する手術は開腹手術が中心でありましたが、現在は腹腔鏡下手術が中心となってきています。腹腔鏡下手術は低侵襲であるだけでなく、最大のメリットである拡大視効果によって非常に精緻な手術を可能としています。従来の開腹手術では見えなかったものが見えるようになり、新たな臨床解剖の発見にもつながっています。ただ、腹腔鏡下手術を安全に施行するには、開腹手術とは違う微細な解剖の知識・使用する機器の特性などの習得が必要です。この手術は日進月歩する最新の機器を使用する手術となります。これまでの外科医教育にはなかった高度な医療機器に対する知識の習得も求められます。安全に腹腔鏡下手術を広めるために、指導者としての資格である日本内視鏡外科学会技術認定医の育成が急務となっています。今後、積極的にトレーニングを中心としたセミナーや研究会を開催していきたいと考えています。また、2018年4月より診療報酬の改定に伴い食道癌・胃癌・直腸癌に対してda Vinci Surgical Systemを用いたロボット支援の保険収載が決まりました。テクノロジーの進歩に遅れることなく世界最先端の手術を実践していきたいと考えています。

研修医・若手医師に対しては、手術加療を中心とした大学病院でしかできない先進的な治療にも積極的に参加してもらいます。日々の臨床経験の中で『患者をよく診る』ということをも重要な柱としてトレーニングを積み、日々の

雑務に流されがちな大学病院での診療業務の中で、疑問点を曖昧にせずひとつひとつ解決していくことを強く望みます。そういった疑問点を解決していくことで新規の臨床研究や新規手術機器の開発などの必要性や重要性を認識することができます。自らの研究テーマを持ち、実験モデルの決定からデータ解析までを担うことにより、医学研究者としての基本姿勢を学んでもらいたいと考えています。

さらに、現在は研究能力のみならず専門的で高度な保険医療を受けることができる体制を要望する国民の声はますます強くなっています。専門医制度に対する認識を深めて、高度の専門性を必要とされる業務に必要な技能・態度を修得させ専門医資格取得の準備期間としても指導していききたいと考えています。また、技術面の習得だけでなく、問題点を明らかにし自ら答えを探ることができる『考える外科医』の育成にも力を注いでいききたいと考えています。特に消化管癌に対する分野では、腹腔鏡下手術を中心とした『低侵襲手術』が、がん治療に対する手術治療の根幹をなすようになってきています。特にこの分野での手術手技ならびに機器開発に関しては、世界的に競争の激しい分野でもあります。旭川医科大学においても、腹腔鏡下手術に関する新規機器や手術手技を開発・実践する場として、若手医師・大学院生にも積極的に参加してもらい、次世代の若手リーダーとして活躍できるように指導していききたいと考えています。

旭川医大は道東・道北における地域医療の中核を担う基幹病院でもあります。医師減少・偏在という問題はかなり深刻な問題として地域医療を圧迫していきます。旭川医大が中心となり、同地域の地域医療の充実を図るべく人材の育成にも力を注いでいききたいと思えます。

当教室は、若い医局員が中心となっており大変活気に満ちた医局です。ここ北の大地、北海道から世界に通用する人材を育成し、さらに地域医療にも貢献できるように医局員一同頑張っていきたいと考えています。

教授就任のご挨拶

旭川医科大学眼科学講座

教授 柳

靖 雄

旭川医科大学眼科学講座の主任教授として2018年10月1日に就任しました柳靖雄と申します。

私は、旭川医科大学に参ります前には、東大病院眼科で長きにわたって主に網膜疾患、黄斑疾患の診療にあたっておりました。網膜・黄斑疾患は、初期治療によって長期の予後が大きく左右されてしまう疾患です。私が指揮しておりました網膜・黄斑グループは常に10名の医師を擁しておりましたが、難治症例が多いのに加え、慢性の経過をたどる症例が多いため、最も患者数が多い多忙な診療チームでした。私の外来でも1日に100名以上の外来患者を診察することもございましたし、グループ診療の外来でも同様に多数の患者を診療してまいりました。そのように多忙な中でも、最新の知見に基づき最善の治療を行えるよう若手医師の教育体制、ならびに診療体制を整えて、志の高いチーム医療が実践できたのではないかと自負しております。

その後シンガポールナショナルアイセンターにお誘いいただき臨床研究者として勤務いたしました。眼科領域では、アジア型は欧米型の疾患と随分異なるのですが、その違いに着目した研究が欧米ではほとんど行われていないのが現状です。しかし唯一このテーマにおいて先進している国がシンガポールです。シンガポールでも臨床においては日本で実践してきた知識や技術を生かし、専門分野の患者の診療に当たると同時に若手医師の育成に努めてまいりました。研修システムが日本より厳格であるため、若手のレジデントは専門医になるために高いレベルの臨床技術の習得が必須であり、そして臨床だけでなく質の高い研究成果発表も求められます。医療システムが異なる中、シンガポールの医師免許を持つ日本からの眼科医師は私以外おりませんでした。診療ばかりでなく若手教育にも大いに貢献できたのではないかと考えております。シンガポールの恵まれた研究環境という点ではもう一つ、グラントの規模の大きさがあげ

られます。私に関わったグラントの規模は全体で数十億円相当にもなり、私が主任研究者として分担する部分だけでも数億円。日本の同分野の研究者が聞いたら耳を疑うスケールだと思います。もちろん資金の獲得は競争的にはなっているものの、眼科研究の領域の研究環境という点でここまで理想的な国は他にはないでしょう。私はこの環境に身を置き、一時の学びの期間を経て、日本の医療のために帰国しました。旭川医科大学に参りましてからも、クロスアポイントメント兼任をお許しいただいてシンガポールにも在籍し、日本とシンガポールの両方で、臨床に並行して眼科創薬研究を進めております。

旭川医科大学におきましてはこれまで既に、診療においては十分な体制が整っており、地域医療の砦となる病院となつてございます。こちらでは、臨床・研究ともに大きな目標を据えてじっくりと行いたいと思っております。地方大学の医師が地域医療に貢献するのは第1のミッションですが、これからの医療の大きな流れに伴って大きな変革を迎える医療を見据えると、第2・第3のミッションが見えてくるのではないのでしょうか。日々の診療だけにとらわれることなく、自分がどのように医療に貢献したいのか、常に目的をしっかりと見据え、これからの新世代の医療に貢献することが大切だと思います。

特に、めまぐるしく変化する最先端の医療がどこに向かうのか、国内だけではなく海外での動きをしっかりと見て理解し、その応用可能性などを自分自身で思考することが求められてくるでしょう。そして、最新の医療技術やシステムは、文献やウェブ上の情報だけで習得した気にならず、ぜひ実際に現場に出かけて見聞きしてください。私は自らの経験から、海外での臨床および研究を行えるような体制の整備を重要視しているため、そのような環境を先生方にも提供できるよう努めていきたいと思っております。ここ旭川医大を世界で最高の臨床・研究を発信の場へと進化させ、共にこの先の医療に広く貢献してまいりましょう。



教授就任のご挨拶

旭川医科大学看護学講座 教授 山根 由起子

平成30年10月1日付で看護学講座在宅看護領域の教授を拝命いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。自己紹介を兼ねてご挨拶させていただきます。

私の故郷は全国で人口が最も少ない鳥取県にあります。これまで長く過ごしたのは愛知県名古屋であり、臨床では、内科も外科も配属され、当時愛知県で救急搬送が最も多かった名古屋第二赤十字病院での神経内科・脳神経外科の経験年数が特に長く、それに伴い深まる知識と看護になりました。教育では、日本赤十字広島看護大学で、認定看護師教育課程の立ち上げと専門職教育を、京都府立医科大学で、在宅チーム医療推進学(寄付講座)と総合医療・医学教育学(兼務)を行ってまいりました。私の研究テーマには「誤嚥性肺炎の予防」などがあります。急性期での予防に着目した後、現在は在宅での予防を目指して取り組んでおります。

私は中学の時に、摂食嚥下障害へのアプローチと在宅医療への志が芽生えたことから医療者を目指しました。摂食嚥下障害分野の発展を望み、摂食・嚥下障害看護認定看護師の一期生として資格取得後、啓蒙活動を行い、病院の看護師や多職種協働のチーム医療による摂食嚥下障害者への関わりが定着していきました。また、入院する方が病院へ求めるニーズに応じたく、在宅医療の情報収集にあたり、退院後の生活を見添えた医療や看護の提供も働きかけました。

認定看護師の九割は病院で勤務しており、受け皿である在宅医療側を中心に活動したのが京都になります。在宅医療従事者及び研修医・医学生・看護学生・その他学生への教育が有機的に繋がり、教育効果を評価するための研究や臨床への応用を目指し、また、基礎研究も行っていました。在宅医療では、ご本人やご家族も含めて生活者を支えることが必要であり、最期まで重要視するその人らしさの一つに食支援があります。看護のみに留まらず、医療や介護の職能団体からお声かけを頂き、現場教育や集合教育を行ってまいりました。一人の患者に包括的に長期に関わる中で、病院で治す役割と在宅で支える役割のどちらにも地域で支える重要

性を強く感じております。

京都では、摂食嚥下障害になっても「食」を楽しむ活動が行われており、プロジェクトメンバーの一人として、和菓子、お酒、お豆腐などの開発に携わり、和菓子は全国への配送が可能になりました。この他にも京和食、清水焼の介護食器、福寿園のとりみ茶などもあり、和食は料亭で注文でき、外食を楽しんでもらえるようになりました。これらは多施設が多職種が白衣姿ではなく、ノミニケーションもまじえて楽しみながら協働し、また、医療・介護に留まらず、職人や企業などとも「知」を共有し、目標に向かい発展した過程があります。

これらは地域包括ケアに繋がり、住民のための住みやすい町づくりに向け、市民公開講座や学会などを通して情報が拡大していきました。

このような活動を機に旭川医科大学や地域包括ケア研究所が主催されている“地域医療の実践者から学ぶ多職種セミナー”にお招き頂き、富良野、名寄、十勝の地域で、地域医療の情報収集も兼ねたセミナーやワークショップを行いました。北海道地域医療構想に目を通し想定したのは、旭川医科大学との連携を必要とされる地域が日本一広範囲になることです。担う人数や時間を予測すると、遠隔医療の益々の発展が望まれ、当大学では重要な発展と発信がなされているところです。一方で在宅医療では、365日24時間体制で看取りまで可能な選択肢が限られるところもあり、住民のニーズや担い手の現状を把握し、地域の特徴を考慮した教育を取り入れたいと考えております。そして、旭川市を中心に地域で何が出来るか模索中であり、学生と共に歩いていくことを楽しみにしております。

北海道の道北・道東など広範囲の医療を担う人の育成に携わる一人になれましたことを大変光栄に存じ、微力ながら努力してまいります。在宅医療、地域包括ケアにおける教育・研究・地域の方と出来ることに貢献し、「繋ぐ」をキーワードに皆様と発展していきたく存じます。ご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。



教授就任のご挨拶

旭川医科大学放射線医学講座 教授 沖崎 貴 琢

2018年11月15日付けで旭川医科大学放射線医学講座教授を拝命致しました、沖崎貴琢でございます。初代天羽教授、2代目油野教授、3代目高橋教授の3名の先生たちによって発展して参りました本講座を4代目として引き継ぐこととなり、その使命と責任の重さに身の引き締まる思いです。皆様、どうか宜しくお願い申し上げます。

私は1998年に旭川医科大学を卒業し、放射線医学講座に入局しました。1年目を当院で放射線科研修医として研修した後、2年目は札幌東徳洲会病院にて循環器内科医の研修をさせて頂きました。1999年には研修医のローテーション制度がまだありませんでしたが、当時の教授（油野民雄現名誉教授）がお許し下さいましたので可能となった研修でした。放射線科に入局しながら他科の研修が出来たことは、私にとってはその後の研究活動を行う上で非常に貴重な経験となりました。1年間の循環器内科の研修を終えて大学に戻った後、2003年には文部科学省の在外研究員として、アメリカワシントン州のUniversity of WashingtonでDr. Minoshimaの研究室に留学する機会を得ました。Dr. Minoshimaはアルツハイマー病の早期診断に有用な統計学的な脳機能画像解析法（3D-SSP）の開発者で、留学先では動物の脳のPET画像解析に触れることが出来ました。留学は1年間でしたが、この期間に自分なりに数学や解析に関する理解を深め、コンピュータに関するスキルを少しだけ向上させることが出来たのではないかと思います。2007年に当院にもPETが導入されましたが、読影作業にはかなりの労力と時間が必要でした。少ないスタッフ数で皆様からのニーズに応じて業務を滞りなく遂行するためには更なる業務の効率化を図る必要性があり、当初はメーカーにユーザインタフェースのカスタマイズをお願いしましたが、予算が無かったこともあり、数年間待ってもなかなか自分たちの使いやすいシステムは完成しませんでした。そこでやむを得ず、私たち自身で独自に読影システムの開発を開始することとしました。私自身は医学部しか卒業しておりま

せんで戸惑うこともありましたが、何とか自力で読影システムを完成させることが出来ました。同時にこの過程で複数の特許技術を発明しました。これらの特許技術は国内外で特許を取得し、製品開発フェーズを完了、2017年末には薬機承認を取得して平成30年4月より画像診断ビューア（L-Share Viewer）として国内で販売が開始されており、本学にとっても特許使用料の形で収入を得ることが可能なビジネスがスタートしています。これ以降も特許技術の開発は継続しており、画像診断ビューア関連以外にも国内特許の出願を4件行っています。最終的に大学での研究成果が広く社会貢献につながるよう、今後も努力して参ります。

放射線医学講座は治療・診断・核医学の3部門で成り立っています。どの部門も現代の医学には重要で、それぞれ異なったスキルを持ったメンバが診療・研究・教育に努力していると自負しておりますが、いずれも人員が慢性的に不足しており、なかなか満足のいくパフォーマンスを達成できていない部分もございます。今後は業務の効率化を行い、フレンドリーで魅力的な講座となりますように努力して参ります。また国立大学医学部の使命として、基礎的ないしは臨床的研究、先端診療技術の開発や国民の皆様への社会貢献を果たす必要がありますので、ただ単にトレーニングの末に専門医を取得してルーチン業務を行うのみに留まらず、メンバがお互いに切磋琢磨して、多様性にあふれる講座を構築したいと考えています。その結果、科学研究費やパテントロイヤリティーをはじめとした外部資金の獲得の増加が期待できると考えますし、当科の特色を活かした活動を強く推進することが可能となると思います。私たちの講座の規模はまだ小さいですが、メンバのそれぞれが持つ様々なスキルを活かし、お互いに協力して一丸となることによって、他の施設に先駆けた研究や診療を実現できるように努力致します。

今後も各科の皆様と協力させて頂き、旭川医科大学発展のために微力ではございますが全力を尽くす所存です。皆様のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

第65回北海道地区大学体育大会 結果報告

7月1日（日）から7月29日（日）の日程で第65回（平成30年度）北海道地区体育大会が開催され、旭川市をはじめ札幌市、室蘭市、帯広市及び留辺蘂町の5会場において競技が行われました。今回は、準硬式野球、サッカー、柔道、ハンドボール、女子陸上競技、女子剣道の競技が参加大学数不足のため開催中止となりましたが、その他の7種目で19大学から参加した学生らにより熱戦が繰り広げられました。

本学は昨年度に引き続き、バスケットボールの分担大学として、7月14日（土）から3日間、旭川市総合体育館においてバスケットボール大会を開催しました。本学バスケット

ボール部員達は前日の夕方から準備を始め、大会の3日間は自分達も試合に出場しながらもスムーズな大会運営に協力してくれました。試合結果は、残念ながら、男子は2回戦、女子は1回戦で敗退となりましたが、試合では大きな声を出しながら、強気な姿勢で攻め続けた姿が印象的でした。

また、室蘭工業大学体育館で行われたバレーボール大会では、男子バレー部が見事2年連続優勝を果たすことができました！おめでとうございます！

来年度も、本学はバスケットボール大会を運営する予定ですので、引き続き皆様のご協力・ご声援をよろしくお願いいたします。

第65回(平成30年度)北海道地区大学体育大会 種目別上位成績表

種目	男 子			女 子		
	優勝	準優勝	第3位	優勝	準優勝	第3位
総 合 成 績	小樽商大	北教大旭川	旭川医科大	北教大札幌 北教大旭川	/	拓殖短大
陸 上 競 技	室蘭工業大	北海道大	旭川医科大	/	/	/
バスケットボール	北教大旭川	北教大函館	小樽商科大 北大水産	拓殖短大	北教大札幌	北海道大 札幌医科大
バレーボール	旭川医科大	小樽商科大	北教大札幌 北教大函館	北教大札幌	北教大旭川	北教大釧路 武蔵女子短大
バドミントン	北教大旭川	北教大札幌	室蘭工業大 拓殖短大	北教大旭川	旭川医科大	帯広畜産大 北海道大
剣 道	小樽商科大	札幌医科大	北見工業大	/	/	/
弓 道	北海道大	北見工業大	帯広畜産大	/	/	/



大学の森みどりの保育園で「ぬいぐるみ病院」を実施

7月19日（木）に「旭川医科大学大学の森みどりの保育園」において旭川医大IFMSAの学生達による「ぬいぐるみ病院」が行われました。最初に、食中毒の予防について、園児たちにもわかりやすいように紙芝居にクイズを交えながら、注意してほしいことを伝えていました。その後、ぬいぐるみを患者さんに見立てた診察ごっこを行いました。園児たちは、各々ぬいぐるみに付き添い、名前や年齢、どこが具合悪いか、など医師・看護師

役の学生に伝えます。症状によっては、体温計で熱を測ったり、口や耳の中の状態を診察してもらったり、お薬を処方してもらいます。ゆっくりとした口調で丁寧に説明してくれる学生に、園児たちは興味津々で診療を受け楽しく学んでいる姿が印象的でした。

旭川医大IFMSAでは、このような活動を通して、子どもの医療への理解や関心を深め、医療行為に対する不安感を和らげる手助けを行っています。



平成30年度解剖体慰霊式を執り行いました

9月19日（水）午後1時30分から本学体育館において、御遺族と御来賓及び教職員・学生合せて約300名が参列し、平成30年度旭川医科大学解剖体慰霊式を執り行いました。

慰霊式においては、本学学生等の教育及び学術研究用に尊いご遺体を提供され、医学発展の礎石となられた方々の計236霊の御霊に対して、ご冥福をお祈りするために黙とうが捧げられ、引き続き吉田学長から追悼の辞が述べられました。

また、学生代表の医学科第3学年齊藤 司さんによる追悼の辞では、『故人そしてご遺族の皆様を大切に引き継ぎ、教えて頂いたことがらを将来の患者のために、そして社会のために活かす責任があります。私たちはその使命を、しかと胸に刻み、次の医療を担いゆく人材となるための努力を今後も重ねていく』と誓いました。

最後に、御遺族と御来賓の方々並びに教職員、学生の代表からの献花が捧げられ、亡くなられた方々の御遺徳を偲びご冥福を祈念しました。



追悼の辞

学 長 吉 田 晃 敏
学生代表 医学科3年 齊藤 司

献 花

学 長 吉 田 晃 敏
学生代表 医学科3年 齊藤 司
医学科3年 大田 暁子
看護学科2年 山岸 龍馬
看護学科2年 佐崎 美矩



学生表彰式

平成30年10月30日（火）午後12時10分から、本学第一会議室において、課外活動又は学術研究活動で特に顕著な成果をあげた学生及び学生団体に対する学生表彰が行われました。

表彰式は、役員及び顧問教員の列席のもと、吉田学長から6団体、個人6名に対し表彰状の授与と記念品の贈呈が行われ、被表彰者の栄誉を称えるとともに、更なる活躍のための激励の言葉が贈られました。受賞者の一覧は以下のとおりです。

＝課外活動による表彰＝

団体名・氏名	大会等名	成績
準硬式野球部	第61回東日本医科学生総合体育大会	準優勝
剣道部男子	第61回東日本医科学生総合体育大会	準優勝
柔道部女子	第61回東日本医科学生総合体育大会	準優勝
バドミントン部男子	第61回東日本医科学生総合体育大会	優勝 (7連覇)
バドミントン部女子	第61回東日本医科学生総合体育大会	準優勝
ソフトテニス部女子	第61回東日本医科学生総合体育大会	優勝
	第52回全日本医科学生総合体育大会	準優勝
医学科第6学年 澁谷 匠 (陸上競技部)	第61回東日本医科学生総合体育大会	男子最優秀選手
	第61回東日本医科学生総合体育大会 男子円盤投(大会新)	第1位
	第30回北日本医科学生陸上競技大会 男子円盤投	第1位
	第70回北海道学生陸上競技対校選手権大会 男子円盤投	第1位
	第91回北海道陸上競技選手権大会 男子円盤投	第1位
医学科第6学年 山崎 秀 (競技スキー部)	第60回東日本医科学生総合体育大会 アルペンスキー男子 スーパー大回転	優勝
	第60回東日本医科学生総合体育大会 アルペンスキー男子 大回転	準優勝
	第60回東日本医科学生総合体育大会 アルペンスキー男子 回転	第3位

医学科第6学年 高村 貴子 (競技スキー部)	第 60 回東日本医科学生総合体育大会 スキー競技女子クロスカントリー3km	優勝
	第 60 回東日本医科学生総合体育大会 スキー競技女子クロスカントリー5km	準優勝
	北海道アウトドアフェスティバル 2017 in ルスト トレイルランニング女子30km	優勝
	第 25 回日本山岳耐久レース(24 時間以内) 「長谷川恒男CUP」女子総合71.5km	優勝
	OSJ 山中温泉トレイルレース 女子80km	優勝
	第 5 回身延山・七面山修行走 女子36km	優勝
	第 10 回ハセツネ 女子30km	準優勝
	粟ヶ丘バーティカルキロメーター 5.5km バーティカル	優勝
	第 4 回上田バーティカルレース～太郎山競走～ エリートコース5km	準優勝
	第 4 回上田バーティカルレース～太郎山競走～ 塩尻コース女子	優勝
	Red Bull 400 ヒルクライムレース	優勝
スカイレース・コマペドローサ(世界シリーズ編)女 子21km	第10位	
医学科第5学年 奥田 景子 (雪艇倶楽部)	平成 30 年度日本カヌーフリースタイル選手権大 会(2018 カヌーフリースタイル・ワールドカップ選 考会) K-1 女子決勝	第5位

＝学術研究活動による表彰＝

氏名	功績
医学科第3学年 熊谷 和美	平成 30 年 4 月 14 日に開催された「第 115 回日本内科学会総会・講演 会 医学生・研修生の日本内科学会ことはじめ京都」の公開討論会に 演題を応募し、優秀発表者賞を受賞した。「薬剤師である医学生の視点 からの高齢者医療と多職種連携」について、自身の薬剤師としての体 験をもとに、多職種連携の重要性を発表した。独創性に優れた演題で 発表技術にも長けている。
医学科第4学年 石井 聖也	平成 30 年 4 月 14 日に開催された「第 115 回日本内科学会総会・講演 会 医学生・研修生の日本内科学会ことはじめ京都」の公開討論会に 演題を応募し、優秀討論者賞を受賞した。発表内容は「みんなが気軽に 集まれる、お医者さんの居酒屋を作ろう」について、これまで自身が参 加した地域医療実習などを通じて地域住民との交流体験をもとに医療 者と住民の垣根をいかに低くすべきかについて提案を行い、体験と深 い考察に基づくことが高く評価された。

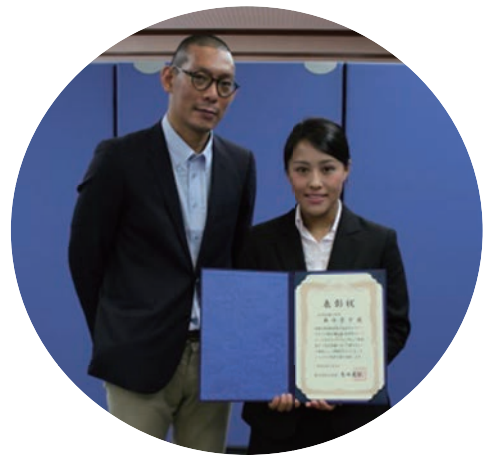


●団体受賞者（課外活動）

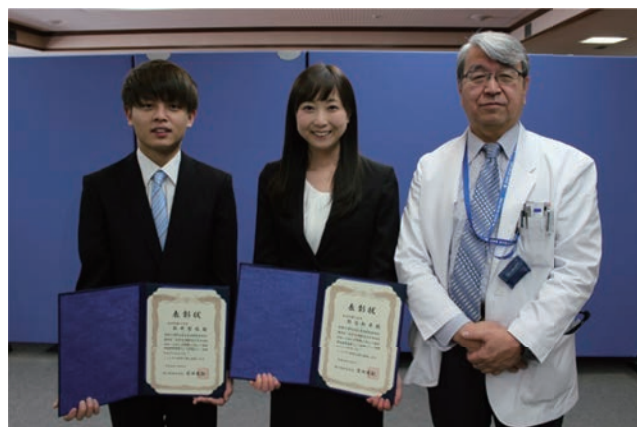




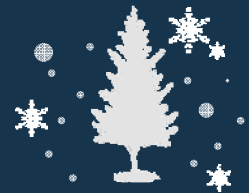
●個人受賞者（課外活動）



●個人受賞者（学術研究活動）



旭川医科大学基金 NEWS



旭川医科大学基金「感謝の集い」 を開催しました

平成30年11月27日に旭川医科大学基金の寄附者の皆様をお招きした「感謝の集い」を旭川医科大学病院内のレストランなかまどを会場として開催しました。

平成28年10月の旭川医科大学基金創設後、2回目の開催となる「感謝の集い」には、寄附者の皆様とご同伴者様を併せ30名の方々にご参加をいただき、本学からは吉田学長を始め、理事、副学長などの大学役員その他、基金の支援を受けた学生・留学生も参加しました。

はじめに貢献会員・特別貢献会員の皆様へ感謝状を贈呈いたしました。また、吉田学長からグローバルに活躍できる医療者の養成などの、教育・研究等に全般に関する講演の後、原渕学長補佐から寄附金の活用および収支状況等についての報告を行いました。

平田理事による乾杯で幕を開けた寄附者の皆様との歓談の間には、支援を受けた学生・留学生から活動成果報告が行われ、日ごろのご支援に対する感謝の気持ちをお伝えすることができました。最後に、原渕学長補佐の閉会の挨拶の後、盛会のうちに終了いたしました。



貢献会員・特別貢献会員の皆様と本学役職員

クレジットカード決済での継続的なご寄附（定期自動引き落とし）が
お申込みいただけるようになります！

以前よりご要望をいただいておりますが、クレジットカード決済により継続的に定額のご支援をいただく寄附方法を、2019年1月から開始いたします。

一度お申込み頂くと、翌月からの手続きは必要なく、毎月自動で任意の金額をご寄附頂けます。旭川医科大学への末永いご支援をいただけますようご検討いただけましたら幸いです。

※詳しくは旭川医科大学基金ホームページをご覧ください。→

旭川医科大学基金ホームページ

URL (<https://www.asahikawa-med.ac.jp/index.php?t=guide+funds>)

旭川医科大学基金 検索



学生団体代表者との懇談会を実施しました

11月28日(水)17時00分から第6講義室において、体育系39団体、文化系34団体、合計73団体の各代表者及び学生会長との懇談会を実施しました。この懇談会は、課外活動を行ううえで注意してもらいたい事項や、守るべきルールやマナーについて再認識してもらい、部員に周知徹底してもらうこと、同時に、学生からの要望や意見を把握することを目的として開催され、大学からは、吉田教務・厚生委員会委員長と川村保健管理センター長が参加しました。

特に注意してもらいたいこととして、未成年の飲酒禁止や自宅アパートで飲み会を開催し

て近隣住民に迷惑をかけること等、最近問題となっていることが取り上げられました。

また、SNSの利用については、何気なくアップした写真等により、刑事責任を問われるケースに発展する危険性があることが説明され、医療者を目指す学生が問題を起こした場合には、社会的に大きく取り上げられる可能性が高いとして、注意喚起がなされました。

大学からの注意事項は以下のとおりです。今一度、一人一人、自身の行動を見直してください。

1. 学外でのルール・マナー

- ・自宅アパートで近隣住民への迷惑行為は行わないこと
- ・近隣店舗での迷惑行為は行わないこと
- ・遠征での公共交通機関を利用する際は、節度ある行動をとること

2. 学内でのルール・マナー

- ・屋内での走行練習での衝突事故の防止
- ・構内での駐車場利用ルールを守ること

3. 団体内での配慮について

- ・部員への活動参加は強制しないこと
- ・未成年の飲酒については絶対させないこと
- ・医療者を目指す者として、部員の体調や試験前の活動について配慮すること

4. 病院でのルール・マナー

- ・院内ローソンイトインコーナーやスターバックスコーヒー等では、病院利用者に配慮した行動をとること
- ・患者情報の取扱いについては十分注意すること

5. インターネット掲示板、SNS等の利用について

- ・特性や自ら負うべき責任を認識すること



ギター部&ジャズ研究会 合同クリスマスコンサート

12月1日（土）13時からギター部とジャズ研究会による合同クリスマスコンサートが病院ロビーで開催されました。ギター部は、映画「戦場のクリスマス」のテーマ曲となった坂本龍一作曲の「メリークリスマス ミスターローレンス」などを演奏、ジャズ研究会

は、ビル・ウィザースのヒット曲である「Just the two of us」などを披露しました。最後は、ギター部とジャズ研究会の学生たちが合同演奏し、会場全体がクリスマスの楽しい雰囲気に包まれました。



室内合奏団クリスマスコンサート

12月2日（日）14時から病院玄関ロビーにおいて室内合奏団のクリスマスコンサートを開催しました。クリスマスソングでお馴染みの「ジングルベル&サンタが街にやってくる」や、ディズニー映画「美女と野獣」のメドレー、映画ピノキオより「星に願いを」、バッハ作曲の「G線上のアリア」等の演奏を行いました。また曲の合間には小休憩を挟み、サンタやトナカイに扮した学生たちが、来聴者1人1人にクリスマスプレゼントを手渡し、

患者さんをはじめ多くの方々に一足早いクリスマス気分を味わってもらえたかと思います。来聴者から頂いたアンケートには「初めて聴きにきましたが本当に良かったです。また聴きにきます」や、「心が温かくなるような時間をありがとうございました」などのコメントが残されていました。このような言葉を励みに団員一同、これからの活動も頑張っていきたいと思います。

室内合奏団 団長 三田村 佑亮



合唱部クリスマスコンサート

12月8日（土）13時30分から病院玄関ロビーにおいて、合唱部のクリスマスコンサートを開催しました。毎年恒例である「クリスマスメドレー」では1年生たちがダンスを披露しました。OBOGステージでは本学卒業生と在校生と一緒に「ぜんぶ」を、卒業生ス

テージでは、卒業生11人で「証」を合唱しました。また、第3部では、女声合唱・男声合唱を披露しました。多くのお客様に私たちの歌声をお届けすることができました。

合唱部 部長 高野 光希



ブラスアンサンブルクリスマスコンサート

12月9日(日)14時から病院玄関ロビーにおいて、ブラスアンサンブルのクリスマスコンサートを開催しました。「サウンドオブミュージック」、「コードブルー」の主題歌等を49人のサウンドで演奏しました。また、楽器の特色を活かした多くのアンサンブルを行ったり、1年生が楽しいダンスを披露する場面もありました。最後のクリスマスソ

ングではサンタや雪だるまに扮した学生が、来場者一人一人にプレゼントを手渡し、一足早いクリスマスを届けました。今年も沢山の皆様にお運びいただき大盛況に終わりました。今後ともブラスアンサンブルをよろしくお願い致します。

ブラスアンサンブル 部長 榎本 いずみ



平成31年度授業料免除の申請について

本学では、授業料の納入が困難な学生に対して、選考のうえで授業料の全額もしくは半額を免除する制度を設けています。以下の基準のいずれかに該当すると思われる学生で、授業料免除を希望する場合は、次のとおり申請手続を行ってください。

1. 授業料免除基準

- (1) 独立行政法人日本学生支援機構の給付型奨学金制度の奨学金を受給している場合。
- (2) 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合。
なお、平成31年度において原級に留め置かれている者、又は最短修業年限を超えて在学している者は、免除の対象とはなりません（病気・留学など特別な事由があると認められる場合は除きます。）。

◎学業優秀と判断する基準

学部第1学年及び編入学生の当該年度の取扱いは入学を以って学力基準を満たしているとする。

学部第2学年以上の学生については、進級を以って学力基準を満たしているとする。

◎修業年限の取扱い

医学科 6年（第2年次編入学生は5年、ただし平成27年度以前の編入学生は4年6か月）

看護学科 4年

修士課程 2年

博士課程 4年（長期履修を認められている者についてはそれぞれの修業年限）

- (3) 授業料納期前6か月以内において、学生の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡した場合、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が困難であると認められる場合。
- (4) (3)に準じる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合。

※授業料滞納者の授業料免除申請は受理しません。

2. 配付期間

平成31年2月18日（月）～4月12日（金）17時15分まで（土日祝日を除く。）

3. 申請期間

①平成31年2月18日（月）～4月26日（金）17時15分まで（土日祝日を除く。）

②平成31年6月3日（月）～6月27日（木）17時15分まで（土日祝日を除く。）

※①と②の期間で提出する書類が違います。それぞれの期間に適切な書類を提出しなければ授業料免除申請は認められませんので、ご注意ください。詳細につきましては、配付書類をご参照ください。

4. 配付場所・申請書類提出場所

学生支援課学生総務係

安否確認システムによる訓練を実施しました

「津波防災の日（11月5日）」を中心とした期間に、安否確認システムを導入している道内の国立大学と合同で、学生・教職員を対象に「安否確認システム」による訓練を実施しました。

本学では、危機管理体制の強化を図ることを目的として、地震等の発生又は災害による大規模な被害が予想される場合に、学生及び教職員の安否状況を迅速に把握し、災害時の安全確認を速やかに行うための一手段として、平成26年度から安否確認システムを導入しています。

今回の訓練は、安否確認システムに登録してあるメールアドレスに訓練用の安否確認メールが配信され、回答用のURLをクリックし、Webから安否状況を回答してもらうというものです。

実際に災害が起こった場合には、皆さんから送信された安否状況の回答は、大学に送信されると共に、登録してある保護者アドレスにも送信されます。安否確認システムは、個人所有の携帯電話の電子メールを活用することを基本としているため、メールアドレス等の登録は各自で行ってください。未登録の場合は、速やかに登録してください。

また、保護者の方につきましても、携帯の迷惑メール対策で指定受信設定をされている際は、@anpi.mailds.jp及び@asahikawa-med.ac.jpのドメイン指定受信設定をされるようお願いいたします。

なお、安否確認システムの詳細は、

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/bureau/shomu/local/anpi/>

をご参照ください。

事故防止について

冬は天候が変わりやすく道路状況や周辺環境が一気に変化します。移動の際は交通事故に注意し、冬山に立ち入る場合には、事故に巻き込まれないよう、事前の情報収集を行うことが必要です。また飲酒等では法律を守り、他人に迷惑を掛けない範囲で楽しむようにしてください。本学の学生である自覚を持ち、以下のことに注意して、充実した学生生活を過ごしてください。

1. 交通事故について

冬道の運転は、凍結路面やわだちでのスリップ等、危険がいっぱいです。運転する際は、自身の運転技術を過信せず、時間等に十分に余裕をもって安全運転を心がけましょう。また、体調不良時の運転や、他人の自動車への安易な同乗は避けるなど、事故を起こさない、事故に遭わない対策を講じてください。

2. 飲酒運転の禁止

飲酒運転は悪質な犯罪であるとの認識をしっかりと持ち、二日酔い運転を含めた飲酒運転の根絶を図りましょう。飲酒した人の車に同乗したり、車を運転する可能性がある人への酒類の提供や車の提供も犯罪となります。

3. イッキ飲み・アルハラ禁止

未成年の飲酒やイッキ飲みの強要、意図的な酔いつぶしは、非常に危険な行為であることを認識し、絶対に行わないでください。

～アルハラの定義5項目～（イッキ飲み防止連絡協議会のページより）

① 飲酒の強要

上下関係・部の伝統・集団によるはやしたて・罰ゲームなどといった形で心理的な圧力をかけ、飲まざるをえない状況に追い込むこと。

② イッキ飲ませ

場を盛り上げるために、イッキ飲みや早飲み競争などをさせること。

③ 意図的な酔いつぶし

酔いつぶすことを意図して、飲み会を行うことで、傷害行為にもあたる。ひどいケースでは吐くための袋やバケツ、「つぶれ部屋」を用意していることもある。

④ 飲めない人への配慮を欠くこと

本人の体質や意向を無視して飲酒をすすめる、宴会に酒類以外の飲み物を用意しない、飲めないことをからかったり侮辱する、など。

⑤ 酔ったうえでの迷惑行為

酔ってからむこと、悪ふざけ、暴言・暴力、セクハラ、その他のひんしゆく行為。

4. 薬物乱用の禁止

昨今「危険ドラッグ」の乱用は大きな社会問題となっています。好奇心や誘惑から、薬物（ドラッグ）を買わない、使わない、かかわらないという強い意思を持ってください。

大学構内における駐車について

例年雪深い旭川ですが、今年は6年ぶりに11月中旬まで初雪が遅れるという記録的な年になりました。

さて、雪が降ると毎年話題に挙がるのが、駐車場問題です。

大学駐車場の区域線が雪に隠れてしまい、線に従って駐車することが難しくなります。

許可車両にて通学している学生は、車両間隔を詰めて駐車するよう協力願います。

また、大学から何度も注意喚起を行っているにもかかわらず、駐車禁止場所への駐車や、路上駐車が後を絶ちません。

すべてが学生の所持している車両とは言えませんが、確実に学生が運転している車両も数多くあり、そのほとんどが不許可車両であるのが現状です。

そもそも、本学は公共交通機関を用いての通学を基本とし、自家用車での通学は、一定の要件を満たし、かつ、駐車場管理委員会により許可された車両しか本学駐車場を利用できないルールがあります。

また、大学中央玄関前などの駐車禁止区域は理由があって駐車禁止にしていますし、本学構内は緊急車両が走行する可能性が高いので、路上駐車は迷惑極まりない行為です。

過去には、不適切な駐車場利用等により、嚴重注意を行った事例もあります。

平日夜間や土日祝日専用のパスカードは、平日日中のパスカードより安価で購入でき、通学距離等の許可要件もありませんので、そういった制度を有効に活用願います。

なお、パスカードの購入を希望される方は、学生支援課学生総務係にご相談ください。

迷惑行為の防止について

旭川東警察署より、本学の近隣に居住している方々から、頻繁に以下の苦情が入っている旨の連絡がありました。ごく一部の学生の迷惑行為によって、本学学生全体の評価を下げてしまうことになりかねません。今一度本学学生であることを自覚して、近隣に居住している方々の平穏・安全を害することが無いよう配慮ある行動を心がけてください。

なお、迷惑行為の度合いによっては、懲戒処分の対象となりますので、大学として厳正に対処します。

【苦情の事例】

- ・住宅の敷地や住宅地の共有部分に迷惑駐車をする者が恒常的におり、居住の平穏・安全が乱されている。
- ・自宅アパートで奇声をあげたり大声で飲み会を開催する者が恒常的におり、居住の平穏・安全・睡眠が乱されている。
- ・自宅アパートの駐車場や隣接する道路において、嘔吐したまま放置する者がおり、不快な思いをしている。

教 員 の 異 動

平成30年8月1日	採用	医学部外科学講座 (消化管外科学分野)	教授	角 泰 雄
平成30年10月1日	採用	医学部眼科学講座	教授	柳 靖 雄
平成30年10月1日	採用	医学部看護学講座	教授	山 根 由起子
平成30年9月6日	昇任	病院経営企画部	准教授	谷 祐 児
平成30年11月15日	昇任	医学部放射線医学講座	教授	沖 崎 貴 琢
平成30年12月1日	昇任	病院緩和ケア診療部	准教授	阿 部 泰 之
平成30年12月1日	昇任	病院緩和ケア診療部	講 師	小野寺 美 子

今後のスケジュール

【冬季休業】

医学科第1学年、看護学科第1学年	12月17日(月)～1月11日(金)
医学科第2学年、看護学科第2学年	12月17日(月)～1月11日(金)
医学科第3学年	12月17日(月)～1月4日(金)
看護学科第3学年	12月14日(金)～1月4日(金)
医学科第4学年	12月31日(月)～1月9日(水)
看護学科第4学年	12月14日(金)～1月4日(金)

※事務局は、12月29日(土)から1月3日(木)まで休業します。

1月10日(木)	医学科第4学年 白衣式
1月18日(金)	大学入試センター試験設営
1月19日(土)・20日(日)	大学入試センター試験
2月9日(土)～10日(日)	医師国家試験
2月14日(木)	助産師国家試験
2月15日(金)	保健師国家試験
2月17日(日)	看護師国家試験
3月25日(月)	学位記授与式
4月5日(金)	入学式